

## Academic Staff - 指導教員 -

生涯スポーツをあらゆる角度から極める教授陣が最先端の研究をサポートします。

<p><b>教授*</b></p>  <p><b>川西 正志</b> KAWANISHI Masashi 体育学修士</p> <p><b>研究テーマ</b>/生涯スポーツの社会的 研究等</p> <p><b>社会活動</b>/日本体育学会体育社会学専 門分科会:現専門領域(会長)、日本生 涯スポーツ学会(会長)等を歴任</p>	<p><b>教授*</b></p>  <p><b>井出 幸二郎</b> IDE Kojiro Ph.D</p> <p><b>研究テーマ</b>/脳の血管と認知機能に対 する運動習慣による影響について</p> <p><b>社会活動</b>/日本体力医学会会員、日本 体育学会会員、アメリカ生理学会会員、 アメリカスポーツ医学会会員</p>	<p><b>教授*</b></p>  <p><b>沖田 孝一</b> OKITA Koichi 博士(医学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/スポーツにおける回復力、 疲労耐性や運動能力向上に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本スポーツ協会認定ス ポーツドクターとして北海道民のメテ ィカルチェックやエリート競技者を育成</p>
<p><b>教授*</b></p>  <p><b>小田 史郎</b> ODA Shiro 博士(教育学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/良好な睡眠を維持・改善す るための運動や生活行動に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本睡眠学会会員、日本体 力医学会会員、日本認知症予防学会代 議員</p>	<p><b>教授*</b></p>  <p><b>小坂井 留美</b> KOZAKAI Rumi 博士(医学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/高齢期までの生涯発達過 程における心身の変化と運動の意義 に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本体力医学会、日本老年社 会学、ヨーロッパスポーツ科学会等所属</p>	<p><b>教授*</b></p>  <p><b>竹田 唯史</b> TAKEEDA Tadashi 博士(教育学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/冬季スポーツ選手の体 力・技術・指導方法に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/Asia Association of Coaching Science(理事)、日本体育学会、日本ス キー学会(理事)</p>
<p><b>教授*</b></p>  <p><b>山本 敬三</b> YAMAMOTO Keizo 博士(工学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/バイオメカニクスと流体力学を用いた スキージャンプのパフォーマンス向上に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本バイオメカニクス学会、日 本機械学会(運営委員)、全日本スキー連 盟情報医科学部門専門委員</p>	<p><b>准教授</b></p>  <p><b>花井 篤子</b> HANAI Atsuko 博士(体育科学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/アクアフィットネスを活用し た健康づくりや運動処方に関する研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本体育学会、日本体力医学会、 日本水泳水中運動学会、Biomechanics and Medicine in Swimming、日本生理人類学会</p>	<p><b>講師</b></p>  <p><b>畝中 智志</b> UNENAKA Satoshi 博士(体育学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/アスリートの熟達化およ び知覚から行動までの認知的処理</p> <p><b>社会活動</b>/日本体育学会、日本スポーツ 心理学会、日本バスケットボール学会、 北海道大学バスケットボール連盟理事</p>
<p><b>講師</b></p>  <p><b>黒田 裕太</b> KURODA Yuta 博士(教育学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/競技パフォーマンスの向上お よび低下抑制に寄与する栄養戦略の構築</p> <p><b>社会活動</b>/日本体力医学会、日本ス ポーツ栄養学会、北海道テニス協会 ジュニア育成委員・医科学委員</p>	<p><b>講師*</b></p>  <p><b>高田 真吾</b> TAKADA Shingo 博士(医学)</p> <p><b>研究テーマ</b>/運動・骨格筋由来の内分泌 因子の役割や機序解明における研究</p> <p><b>社会活動</b>/日本体力医学会会員(評議員)、 アメリカ生理学会会員、アメリカスポ ーツ医学会会員、米国心臓病学会会員</p>	<p><b>講師</b></p>  <p><b>吉田 昌弘</b> YOSHIDA Masahiro 博士(理学療法)</p> <p><b>研究テーマ</b>/スポーツ外傷・傷害から安全 に競技復帰するための評価手法の考案</p> <p><b>社会活動</b>/日本アスレティックトレーニング学 会、日本臨床スポーツ医学会、日本スケート連 盟シヨートトラック医科学スタッフ(トレーナー)</p>

※研究指導教員

## Recruitment - 募集について -

<b>募集人員・修業年限</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生涯スポーツ学研究所 生涯スポーツ学専攻 3名</li> <li>■ 標準修業年限3年(長期履修制度により最長6年まで在学可能)</li> </ul> <p><b>長期履修制度</b> 標準修業年限3年では教育課程の履修が困難な場合、 6年間で修学することが可能です(事前申請が必要です)。</p>
<b>取得学位</b>	■ 博士(スポーツ科学) Doctor of Philosophy in Sport Sciences
<b>予想される進路</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学・研究所等での研究職員</li> <li>■ 国立スポーツ科学センター(JISS)や都道府県設置の医科学センターにおける研究員</li> <li>■ プロ・実業団スポーツチームにおけるコーチ、動作分析・戦術アナリスト</li> <li>■ 研究用計測機器を製造・販売する企業の専門的研究技術職</li> <li>■ 地域スポーツ振興を担う都道府県職員・公的機関</li> <li>■ 総合型地域スポーツクラブの職員・マネージャー</li> <li>■ 医療施設・健康づくり施設での健康運動指導者</li> </ul>

北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究所  
生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

北海道唯一  
「博士(スポーツ科学)」を  
取得できる博士後期課程  
令和3年4月誕生



「生涯スポーツ学」を探求する、北海道唯一の研究拠点。

# 北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

今日、人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、豊かで活力ある社会を実現することが求められています。本研究科は、北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、運動・スポーツや健康に関する高度な学術的研究能力と専門的スキルを修得し、地域に根ざした生涯スポーツ振興の指導的役割を果たす人材を養成します。豊かな生涯スポーツ社会の実現と一緒に目指していきましょう。

**NEW**

**北海道唯一、スポーツ科学の博士後期課程が誕生。**

北の研究拠点として、国際的に活躍する博士学位を有する研究者を養成します。  
科学的専門知識をもとに、生涯スポーツ社会の発展に貢献するスペシャリストを目指しましょう。

**冬季スポーツの競技力向上**



**健康寿命を延ばすための健康づくり**



**ディプロマ・ポリシー〈学位授与方針〉**

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備え、研究成果が国内外で認められた者、当該分野で指導的な役割を担える者に学位を授与する。

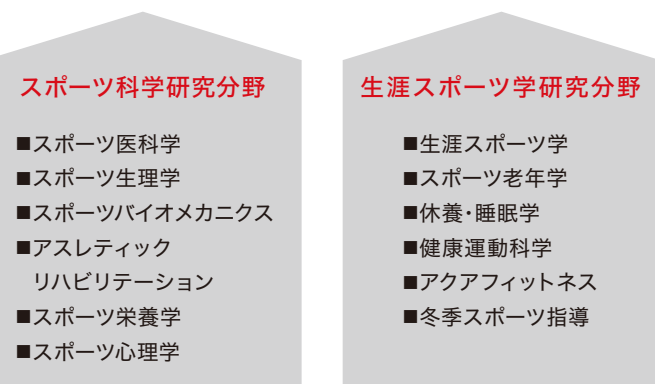
**カリキュラム・ポリシー〈教育課程編成方針〉**

院生の研究能力について専門的に深化できるよう、教育課程を共通科目、専門科目及び研究指導科目の3領域で構成する。共通科目では、国際的な研究能力を身につけるため、英文読解と作文能力及びプレゼンテーション能力を養う。専門科目はスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野の2分野で編成される。スポーツ科学研究分野では、運動生理学やバイオメカニクス、トレーニング科学などの研究手法を修得し、冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析・研究能力を養う。生涯スポーツ学研究分野では、応用健康科学、生涯スポーツ学、スポーツ教育学などの研究手法を用いて、地域住民の健康問題の解決や生涯スポーツの振興に貢献できる研究能力を養う。研究指導科目では、複眼的な指導・評価体制で実施し、修業年限内に博士論文を完成できるよう段階的に構成する。

**アドミッション・ポリシー〈入学受け入れ方針〉**

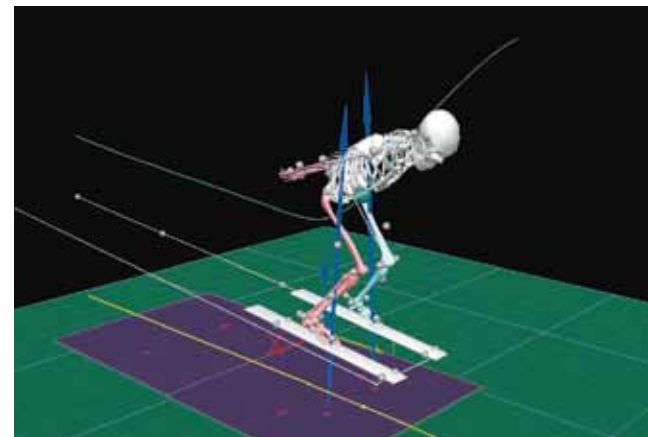
運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的スキルを有する人材を求める。スポーツを科学的に分析する能力を有する人材や、生涯スポーツ活動の推進、健康増進のための研究能力を有する人材を受け入れる。また、博士後期課程の研究を遂行するために必要な英語能力を有すること。なお、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員の高度専門家の観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

[博士後期課程における研究分野]



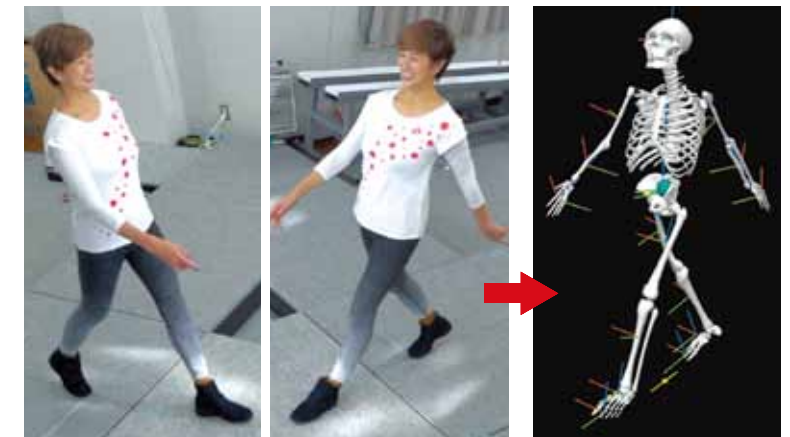
**Facilities - 設備・研究機器 -**

運動やスポーツなどの身体動作を科学的・定量的に分析できる研究機器も揃っています。



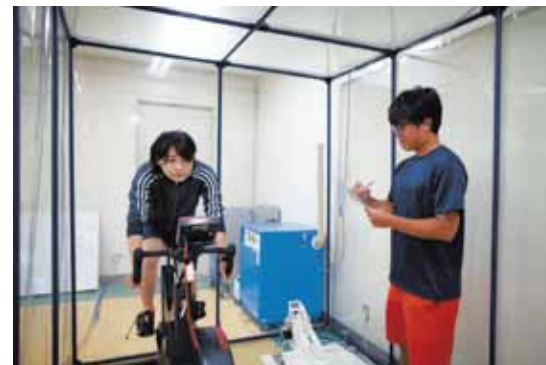
**光学式モーションキャプチャシステム**

身体に赤外線反射マーカを貼付し、赤外線カメラで撮影することで、マーカの三次元座標を計測することができる装置です。床反力計や表面筋電計と同期計測することで、身体運動における姿勢や動き、力や筋活動を記録することができます。



**マーカレス・モーションキャプチャーシステム**

Theia3Dは次世代のマーカレスモーションキャプチャーシステムです。被験者は普段通りの服装でモーションキャプチャーが可能です。カメラ映像から独自AIによって自動で人体の骨格データのみを認識し、最適なモデルが適用されます。後処理が全く不要であるため、短時間でより多くのデータを解析することが可能です。



**低酸素制御装置**

低酸素環境を人工的に作り出し、有酸素能力の向上や高地順応のためのトレーニングが可能です。有酸素及び無酸素性持久力向上のトレーニング方法の開発に利用されます。



**呼吸ガス分析装置・大型トレッドミル**

安静時および運動時に呼吸ガス分析を行い、エネルギー消費量を算出することができます。漸増負荷運動時に用いることにより、有酸素性作業能力の有効な指標である換気性閾値や最大酸素摂取量を測定することができます。

**NEW**

・超音波診断装置 (Affiniti 50)

**NEW**

・脳活動画像診断装置 (NIRS) (WOT-100(16チャンネル))  
及び画像提示装置 (SP-POST01)

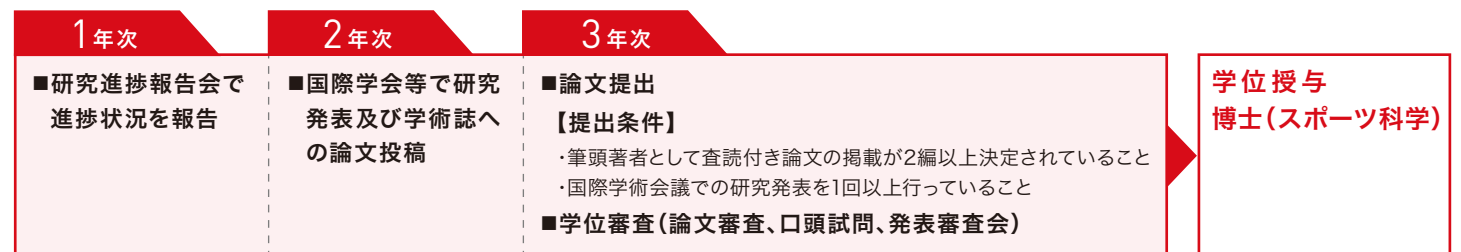
・人工気象室

**Curriculum - カリキュラム -**

充実のカリキュラムで専門的な知識と技能を修得することができます。 詳細はHPへ▶



**Process - 学位取得までのプロセス -**



**Support for Working People - 社会人へのサポート -**

- 一部夜間の授業実施や休日、長期休業中における集中講義等にて対応します。
- 最長6年まで在学できる「長期履修制度」もあわせて有効活用することで、仕事をしながら学位取得が可能です。